



解決したい課題、共創を通じて実現したいこと

[テーマ① 建設業界の“辛いところに手が届く”ようなDX化ツール、システムの共同開発・事業連携]

建設業界では日報や伝票類、届出書類など、業務上、非常に多くの書類を管理、取扱う必要があります。またそれらはオフィス内だけでなく現場においても同様です。酷暑、厳寒、強風、降雨、積雪といった屋外環境下でもこれらの書類の確認や提出が求められることから、その書類管理にかかる業務コストは相当です。加えて規制対応、工程管理、従業員勤怠管理、各現場で使用する資材等物品の調達や在庫管理など、管理・マネジメントすべきパラメータが膨大にあります。建設業界向けのデジタルツールも普及してきましたが、現場管理に特化し用途が限定的なもの、API連携ができないなど応用が利かないものが多く、開発途上の状況です。弊社ではまさに建設業界の“辛いところに手が届く”ようなDXツールを求めています。弊社を実証フィールドとしながら人手不足などの課題を解決し、生産性向上、コスト削減、品質向上などを実現するツール、システムの開発を進めてくださるパートナーを募集します。

[テーマ② 建設領域で活用可能な新規技術とその活用方法の探索]

担い手確保、資材価格高騰、働き方改革、生産性向上、持続可能な社会資本の整備と維持管理の継続などの社会的要請の高まりから、建設業界では“新規技術の活用”が求められています。①施設利用者の利便性向上につながる技術、②建設施設的环境配慮や省エネルギー性能を高める技術、③建設工程の効率化や安全性向上に資する技術など、建築物・構造物の種類や目的によって多岐にわたりますが、建設領域（土木～建築）で活用可能な新しい技術について、その目的と活用方法を含めたご提案を広く募集します。

[テーマ③ 人材の採用や教育、研修に活用できる技術やサービスの探索]

建設業界における人材に関する課題として、①人材採用の難しさ、②長年培ってきた技術の伝承や教育、③新たな工法や建設機械導入に向けた研修、訓練の必要性の高まり、④外国人労働者に対する言語に頼らない“視覚的な情報伝達方法”の必要性の高まりなどがあります。こうした人材の採用や教育、研修において活用できる技術やサービスのご提案をお待ちしています。

共創時に提供可能性のあるリソース

- 弊社が関わる建設の現場を、技術・サービスの検証やPoCのフィールドとして活用いただけます（全テーマ共通）。
- 弊社とともにクライアントへの技術提案段階からご参画いただくことで、スタートアップの皆さんの新規技術が実際の建築物や施設に実装される機会を提供可能です。弊社は既にスタートアップが持つ技術を技術提案へ組込む取組みを実施した実績があります（テーマ②）。

担当者メッセージ（営業部）

昭和34年設立の総合建設業（ゼネコン）として、北海道のみならず東北、関東など東日本全域でも事業を展開しています。北海道の現地事情や現場環境に精通したパートナーとして、いわゆるスーパーゼネコンとの協業機会も多いです。特に積雪寒冷地である北海道の環境下でも適用可能な様々な新規技術のご提案をお待ちしています。

参考情報リンク

[企業概要]

<https://www.iwakura-kensetsu.jp/company/>

[国内施工実績（PPP案件の一部）]

<https://www.iwakura-kensetsu.jp/project/pfi.html>